〈作　品〉

パウル・クレーの主題による作品

石　野　　眞

Makoto ISHINO：A Work Based on Paul Klee's Theme

パウル・クレーは多くの素晴らしい絵画を描いた．パウル・クレー研究と作品鑑賞の中で本年，初めてこのテーマで制作，作品を発表する．クレーの主題とクレー的なるものを問いかけることは，私自身の生涯にわたる研究と制作の課題である．

キーワード：Paul Klee　パウル・クレー　宮城県美術館　日本基礎造形学会

かたちの基本といもいえる小さな三角形と四角形という単純なかたちを丁寧な水彩絵の具，レンブラントやW・ニュートンによる色彩表現で構成したこの作品は，フランスのアルシュ水彩紙による水彩画である．

パウル・クレーの絵画表現は，バウハウスにおける講義手稿「美術教育ノート」によって深く理解し，鑑賞することが出来るが，パウル・クレーの表現世界はまさに，色と形を言葉として造形思考し，造形文法によって組み立てられた造形表現である．パウル・クレーの創作信条は「芸術は見えるものをそのまま再現するのではなく，見えるようにすること」であり，私たちの目には見えないものをも，見えるように表現することでもあった．

８月に東北工業大学で第16回日本基礎造形学会仙台大会に際して研究発表「パウル・クレーの造形思考」を行った．

仙台は，パウル・クレー研究の地である．日本基礎造形学会では，会員の作品展を同時に開催して来たが，本年も宮城県美術館県民ギャラリーで作品発表を行った．この作品は，この発表のために制作したものであるが，仙台での発表後の10月，米子美術家協会展にも出品した．

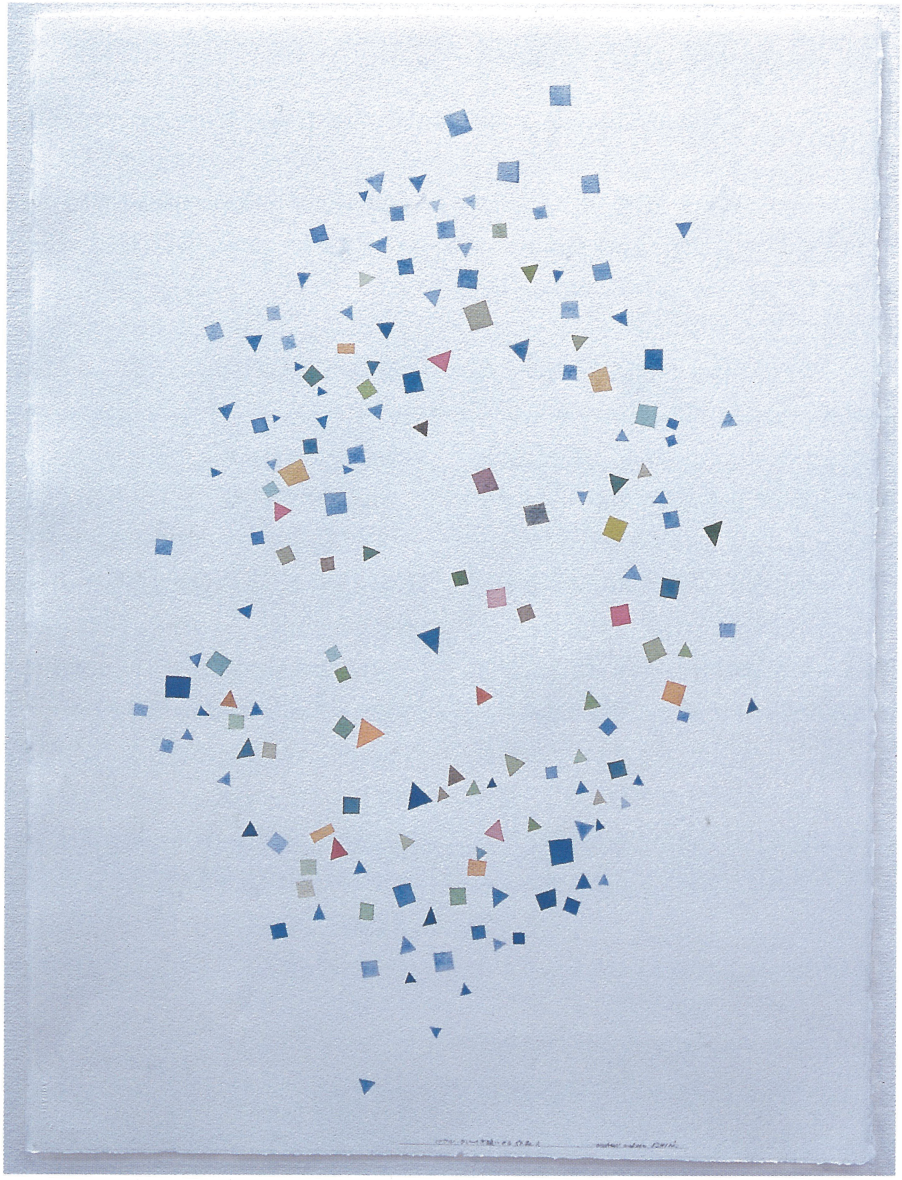
宮城県美術館では，クレー研究にも造詣の深い西村勇晴学芸部長にもお会い出来て，来年のクレー展計画を喜ぶとともに館蔵作品のクレー作品３点を鑑賞した．

「中国風の絵」1923年．「緑の中庭」1927年．「力学値のつりあい」1935年である．

杜の都，仙台では学会のあとに庄子晃子大会実行委員長のご案内を戴いて，東北大学名誉教授，西田秀穂先生にお会い出来て，ヨーロッパで西田先生が研究の折々に撮影された写真作品展を鑑賞しながら二日間，二度にもわたってパウル・クレー研究のご指導を得，著書まで戴いたのは，望外の幸せであった．感謝！

参考文献

・「パウル・クレーの芸術―その画材と技法」西田秀穂著・東北大学出版会・2001
・パウル・クレー「教育的スケッチブック」利光功訳．中央公論美術出版1991
・「パウル・クレー手稿・造形理論ノート」西田秀穂訳・美術公論社1988



パウル・クレーの主題による作品　76cm×58cm
石　野　　眞